彩るガラスと生きる島

2050年、地球温暖化における海面上昇が原因で、生まれ育った故郷を失う人々が多く存在する。
小さな島だとしても、そこに住む人たちにとっては大切な故郷である。
そのような島を守るべく、視覚的に軽やかな素材であるガラスによって島全体を包み込む。
島の水没危機に瀕するたびに、ガラスが増築されていき、その成長に伴って、時代に適応した人々の居場所が拡大していくガラスと生きる島である。
地球温暖化という負の要素を、ガラス建築によって受け止めるだけでなく、人々の居場所へと変換し、島を彩っていく。

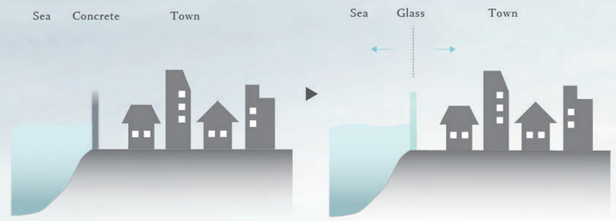
01. 2050年における地球環境

近年、急速な都市の発展や技術の進歩により人々の生活はより豊かになった。
一方で、それらが原因で地球温暖化は未だに進行し続け、止めることは不可能と言われているのが現状である。
2050年には地球温暖化による海面上昇が原因で、世界中の幾つかの島が水没の危機に陥ると予想され、
それに伴い、島民は移住を迫られ、慣れ親しんだ土地を離れざるを得ない状況にある。

海抜高度の低い島では、移住計画が進んでいる。　侵食され、水没の危機に陥り、島民は故郷を失う。　完全に島が水没し、生活の痕跡も消えていく。

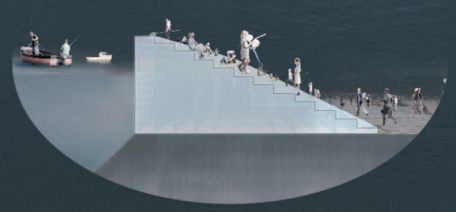
02. 島を守る2050年の土木的ガラス空間

海面上昇による島への侵食をコンクリート構造物によって遮り、守るのではなく、
土木的な耐久力と強度を兼ね備えたガラスを隔てることで、
街と海との風景を連続させながら、防御性を持ち合わせたガラス空間を生み出す。



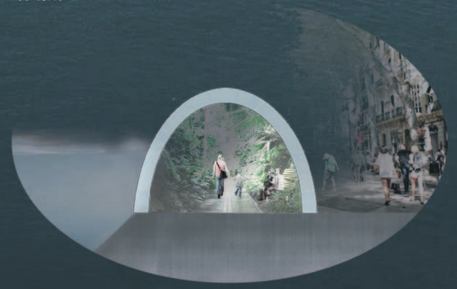
03. 人々の居場所を彩るガラス空間

ひとつながりの軽やかなガラスの壁が、それぞれの機能に応じてシームレスに形態が変化しながら、島全体に点在する人々の居場所をつくりだす。
海面上昇から島を守るガラスの壁として機能しながら、人々に寄り添うガラス空間となる。

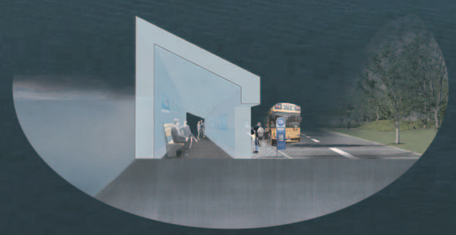


Ⅰ. 階段広場

Ⅱ. 商店街



Ⅲ. ビオトープ



Ⅳ. バス停

Ⅴ. 展望デッキ